

令和7年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)


会 派 名	壮志会	
事 業 名	先進地視察 千葉県柏市 柏モデルに基づく地域医療・介護体制	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市において医療体制の充実が喫緊の課題です。また高齢化の進捗に伴い介護体制についても更なる充実が必要であり、柏モデルを参考に医療と介護両面から総合的な地域内連携体制の構築を模索する為の調査・研究を図りたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	柏市健康医療部 地域包括支課・地域医療推進課
令和7年7月15日 10:00 ~ 12:30	担当部局	地域医療推進課 飯塚直也 副主幹 地域包括支援課 菅谷健司 様他4名

報 告 内 容	<p>1 柏市の概要</p> <p>柏市は千葉県北西部の下総台地上に位置し、面積約 114.74 km²、人口は約 43.6 万人（2024年5月時点）であり、千葉県内では5位の規模を誇る中核市・業務核都市です。首都圏へのベッドタウンとしての側面があり千葉県内外から人口・経済活動が集まる中心地です。</p> <p>2 柏市の特徴</p> <p>柏駅周辺は「東の渋谷」と呼ばれる繁華街で、大型商業施設、若者文化、グルメも集積している。JR常磐線・東武アーバンパークライン・つくばエクスプレスが通り、東京・埼玉・茨城との結節点であり人気が高い。「柏の葉」エリアは国の「スーパーシティ型国家戦略特区」に選定され、公・民・学連携によるデジタル田園都市構想モデル地区や自動運転バス、エネルギーマネジメント、次世代教育などの実証実験がされるなど教育や子育ても充実した今注目の人気の都市です。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>高齢化に伴い独自で構築した長寿社会に向けた取り組み 「柏モデル」は医療と介護、そして各種健康政策が総合的に融合した地域主導型モデルとして国内外で評価が高い。 上田市としても高齢化の上昇を背景にした地域総合型対策が必要と考え、同モデルを参考に地域医療・介護・福祉体制構築に向けて特徴的な以下5項目について調査・研究をした。</p>	 <p>柏地域医療連携センター</p>
------------------	---	--

- ① 医師会、歯科医師会、薬剤師会、その他機関との連携構築
- ② 柏地域医療センターの役割と市の担当課との連携
- ③ 顔の見える会議の運営について
- ④ 地域医療情報システムについて
- ⑤ フレイルチェックの取り組み



柏市地域医療推進課

4 具体的な察事項報告

① 医師会、歯科医師会、薬剤師会、その他機関との連携構築

地域の団地の高齢率 40%化に伴い 2010 年柏市、東京大学、UR 都市機構の 3 者で研究会を設立、3 者協定締結した。推進した東大の指導教授による厚生労働省への働きかけなどにより、厚生労働省との連携において地域医療体制の現状および高齢化社会対応に対して在宅医療・介護連携に対して地元医師会等が積極的に参加することになった。

② 柏地域医療センターの役割と市の担当課との連携

2014 年にセンター運営開始。同センターは医師会、歯科医師会、薬剤師会の共同で建設、1 階に柏市地域医療推進課が入居して地域医療と多職種連携・推進の拠点として稼働中。在宅調整支援や医療、看護、介護の総合コーディネイト機能や在宅医療に関わる医師の研修機能や市民への各種相談、啓発機能を備えている。

③ 顔の見える会議の運営について

地域総合連携の推進に向けて情報共有や立場や職種を超えた人的交流が必要不可欠です。その為の共通課題を基に知識および認識の向上を図る為に定期的に医師を中心に医療・介護・福祉関係者が一堂に集まる研修会を開催しています。令和 6 年度は 3 回、通算 38 回、延べ 7282 人が参加しています。

④ 地域医療情報システムについて

業種を超えた業務連携の為に情報の共有化は必要不可欠です。通称カシワネット(地域情報教習クラウドシステム)で個人情報共有化を推進したり、参加者ごとや課題ごとに情報共有や意見交換できるスペースを設置することで活性化を図っている。現在利用者 2257 名、499 事業所が利用している。また利用に関する方法等を E ラーニング方式で説明する研修会を常時実施、令和 6 年度 2068 名受講、487 事業所が参加するなど活用量を拡大中。

⑥ フレイルチェックの取り組み

2014 年から開始、年齢による機能低下状態からの回復を目指して各種取り組みを実施でフレイルチェック発祥の地ともいわれている。各種健康調査を基に出前講座やフレイル予防サポーター養成するなど市民が主体的に体制を構築している。



壮志会視察風景

上削減されるなど注目に値する成果を挙げている。

また啓発事業や予防パンフレットなど継続的に実施中。運動と栄養、社会参加を3本柱にして高齢者の保険事業と介護予防を一体的かつ独自の基準によるデータ分析で、今後問題や支援が予想されるハイリスクの高い高齢者を発見に力を注ぐ。

また健康アプリや予防ポイント制度を活用した取り組みは介護給付費が年額4.3万円以上

5 上田市政に生かせること

高齢化社会に向けた地域での総合的な医療、福祉、介護、予防分野が連動したシステム構築は是非上田市でも構築すべきと考える。

特に医師を中心にした職種を超えた連携会議は厚生労働省も巻き込んだ理想的なモデルであり、現在も年間200件以上の視察が国内外から絶えないことも納得できる。

在宅での医療や介護体制構築は勿論、高齢者のフレイル予防活動や生きがいの創出など期間や健康状態毎の支援体制の構築ができています。

在宅医療・介護サービスの2名担当医師体制における各医療・介護関係者の連携組織化や総合的な定期的な意見交換・情報共有会議の実施などは是非上田市でも取り組みたい内容です。まずは出来ることから一歩ずつ改善・充実を推進する体制構築が必要と感じます。

以上



視察後の記念写真

感想(まとめ)・市政に活かせること

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと